

2016.12.15
vol.53

シネマ・ド・リぶらの
コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

素晴らしき哉、人生！

It's a Wonderful Life



12月15日(木)

① 10:30 ~ 12:40

② 14:00 ~ 16:10

観る者を明日の希望へと導くフランク・キャブラ監督ならではの珠玉の人生ドラマ。

第4回ゴールデングローブ賞監督賞受賞

AFI“元気になるアメリカ映画ベスト100”第1位

監督・製作：フランク・キャブラ

音楽：ディミトリ・ティオムキン

出演：ジェームズ・スチュワート／ドナ・リード／

ライオネル・バリモア／ヘンリー・トラヴァース

製作：1946年米国 モノクロ

上映時間：130分

日本公開：1954年

『素晴らしき哉、人生！』テーマ展示

◆ 12月8日(木) ~ 12月15日(木)

◆ 場所：ポピュラーライブラリー

次年度の上映についてのご案内

29年度上映予定日

- 第56回 4月20日(木)
- 第57回 5月25日(木)
- 第58回 6月22日(木)
- 第59回 8月24日(木)
- 第60回 9月21日(木)
- 第61回 10月19日(木)
- 第62回 12月21日(木)
- 以下未定

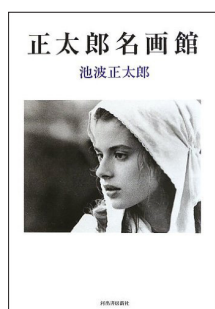
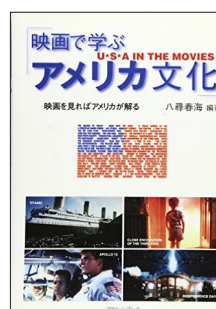
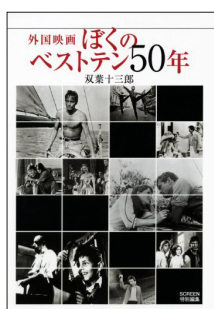
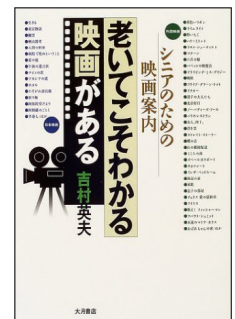
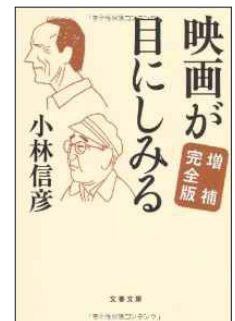
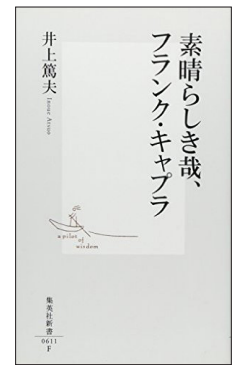
上映作品は、現在検討中です。図書館に所蔵されているDVDで、無料で上映できる作品は限られていますが、皆様の賛助で、レンタルを利用することができ、上映作品の幅が広がっています(一般家庭で利用するレンタルではありません)。図書館の所蔵作品もレンタル作品も限られてはいますが、色々な作品を楽しんでいただけるよう、検討しています。

上映作品(案)

- 『バグダッド・カフェ』
- 『類猿人ターザン』
- 『たそがれの維納』
- 『あん』『自転車泥棒』
- 『荒野の決闘』
- 『みじかくも美しく燃え』
- 『バルカン超特急』
- 『黒いオルフェ』

映画を読む 『素晴らしき哉、人生！』

『素晴らしき哉、フランク・キャブラ』	井上 篤夫／著	集英社	778.253
『いい映画にはいい雰囲気がある』 団塊世代が選んだ 120 本の映画感傷	上原 徹／著	アートダイジェスト	N 778.2
『映画を観ながらあれこれ思う』	西村 玲子／著	文化出版局	N 778.0
『映画が目にしみる』	小林 信彦／著	文芸春秋	N 778.0
『老いてこそわかる映画がある』 シニアのための映画案内	吉村 英夫／著	大月書店	N 778.2
『おすぎとピーコのこの映画を見なきゃダメ!』	おすぎ／著	学研	N 778.0
『外国映画ぼくのベストテン 50 年』	双葉 十三郎／著	近代映画社	N 778.2
『人生を豊かにするための 50 の言葉』 名作映画が教えてくれる最高の人生の送り方	田中 雄二／著	近代映画社	N 778.0
『12 歳からの映画ガイド』	佐藤 忠男／著	小学館	778
『見ずには死ねない! 名映画 300 選』	黒川 裕一／著	中経出版	N 778.2
『映画で学ぶアメリカ文化』 映画を見ればアメリカが解る	八尋 春海／編著	スクリーンプレイ出版	778.253
『知っておきたい映画監督』 外国映画編	キネマ旬報社／編	キネマ旬報社	778.28
『映画の夢、夢のスター』	山田 宏一／著	幻戯書房	778.28
『正太郎名画館』	池波 正太郎／著	河出書房新社	778.04
『映画は語る』	淀川 長治／著	中央公論新社	778.04
『映画行脚』	池波 正太郎／著	河出書房新社	778.04
『こども映画教室のすすめ』	土田 環／編	春秋社	778.07
『映画でみつけた素敵なことば』	岡田 喜一郎／著	佼成出版社	778.04
『映画から見える世界』 観なくても楽しめる、ちづこ流シネマガイド	上野 千鶴子／著	第三書館	778.04



ネタバレ、注意!! K.M.

この映画、あまり予備知識もなく DVD で初めて観たのですが、オープニング・クレジットがあまりに素朴すぎてアレ! でも、神様と2級天使の天上での会話あたりから徐々に引き込まれて、「これパラレル・ワールドじゃん!」と過去のテープを早送りで見ると小気味よいカットの連続に乗せられ、ごく自然に感動のラストシーンへ。

脇役がよかったですね。ヘンリー・トラヴァース扮する2級天使クラレンスが傑作! 羽のないおじいちゃん天使が大好きになりました。バーグマン系美形のドナ・リードの良妻賢母ぶりも魅力的。ライオネル・バリモア扮する町一番の富豪であるポッターも憎まれ役なのだけれど、言い分は筋が通っていて、憎みきれないパーソナリティーで面白かった。主人公ベイリー vs ポッター = 民主党系 vs 共和党系?

やはりラストシーンがすごい(ネタバレごめんさい)。笑顔とメリークリスマスの大洪水。「オールドドラングザイン」の大合唱。山もりのプレゼントの中に、2級天使クラレンスの愛読書「トム・ソーヤの冒険」が。中に『友のある者は敗残者ではない。翼をありがとう。クラレンス』の書き込み。そして、クラレンスが天使の羽をもらったことを暗示して、クリスマスツリーのベルがチリン! このカラッとした大団円と怒濤のハッピーエンドに押し切られて、じわっと涙腺が。

ラストの「オールドドラングザイン」は、音楽担当のティオムキンが最初に考えていた曲を無視して、キャブラ監督が強引に採用したのだそうです。以後、二度と二人の

仲は復縁しなかったとか。ティオムキンは6年後、クーパー主演の『真昼の決闘』でアカデミー音楽賞をゲットして、映画音楽の巨匠に育っていきます。『真昼の決闘』主題歌の『ハイ・ヌーン』は、私が小遣いで買った最初のSPレコードでした。

主人公ベイリーとポッター氏は、住宅ローン業者です。2008年に世界を震撼させたサブプライムローンのリーマンショックとダブリました。フランク・キャブラ監督が、キャブラ映画の集大成としてこの作品を作ったのは1946年。アカデミー賞では作品賞を含めた5部門にノミネートされたが無冠に終わり、興行的にも惨敗だったそうです。当時は第2次世界大戦終了直後で、アメリカが名実ともに世界最強国になった頃。きっとこの映画で元気をもらわなくても、アメリカという国も国民も十分元気だったからではないかと思います。

その後、毎年末にTV放映される内に、それまでキャブラを知らなかった若い世代から再評価され、今ではクリスマスにこの映画が流れるのは定番となり、アメリカで最も親しまれる作品として定着しています。2006年にアメリカ映画協会(AFI)が選出した「感動の映画ベスト100」の1位になったのは有名です。

日本で公開されたのは1954年ですが、日本でも当時はあまり話題にはならなかったと記憶します。ただ、最近のWEBでのユーザー・レビューをみると、TVやDVDでこの作品に触れた若い世代の評価は極めて高く、「癒し」に敏感な若者たちの置かれている状況が反映されているようです。

10/27 「マダム・イン・ニューヨーク」の感想

・私も夫の転勤でイギリスに行って、シャシのように苦労したことを思い出しました。ハンバーガーショップで「anything else?」が聞き取れなかったり、まちがったおつりを渡され取りもどすのにすごく時間がかかったり、息子の懇談会で「Your son is very good.」しか聞き取れなかったりと、とてもよい映画でした。

・『マダム・イン・ニューヨーク』大好きです! インド映画大好きです。またお願いします!!

・大好きなニューヨーク、また行きたいニューヨーク。映画もとてもよく、楽しいひとときでした。また参加したいです。

・インド映画は初めて観ました。インドは大変な格差社会と聞いています。上級社会は自分の思うことができたらやましい。こんなにできたら楽しいでしょう。

・今日のインド映画はテンポよく、楽しかったです。
・対話の大切さと友情のすばらしさ、家族の絆こそが人生の最大の価値であり、財産また宝であると教えられた気がします。

・心美しい映画でした。切羽詰まれば何でもできると思いました。感動しました。

・「自分を助ける最高の人は自分」という言葉に共感しました! シャシもきれいですてきでした。

・自分や周りがイヤになったときに、自分を取り戻すため、前向きに勇気をもっていったシャシ。とてもすてき。

・楽しかった! シャシすばらしい! 私もシャシのように残り少ない人生を生きよう!

・89才 元気が出て長生きできるぞ!

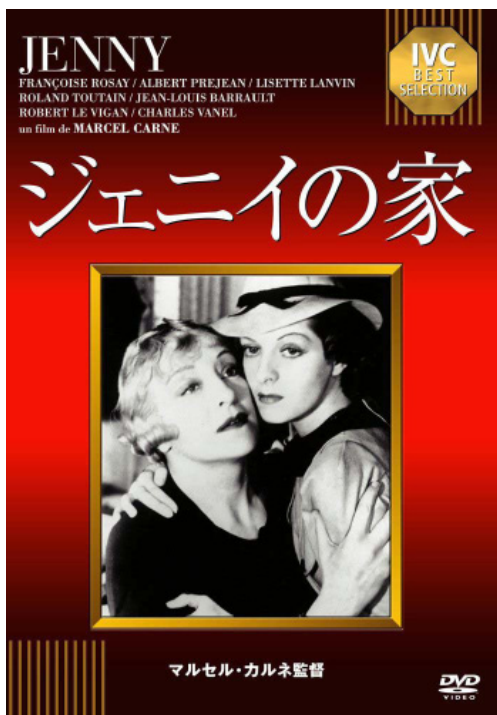
・私も毎日頑張ってますよ。家族わかってるかな?

- ・マンネリ化する家族から離れるキッカケがあって、自分にチャレンジすることにより、改めて家族のよさに目覚める主人公。とてもステキな映画でした。
- ・いい映画でした。でも「愛と敬意」を家族にもつことはむづかしいです。
- ・面白いけど現実は厳しいから、映画だと思いました。
- ・シャシィがすばらしく可愛く美しかったです！！
- ・奥が深い、すばらしい映画でした。何度も見たいと思います。ありがとうございました。
- ・とてもいい映画でした。何回も見たい。音楽もステキでした。ありがとうございました。
- ・今の子供たちに見せてあげたいですね。家族愛、人としてとても勉強になります。10回でも100回でもみたいです。サイコーです。
- ・心のあたたかくなるとてもよい映画でした。ありがとう。
- ・楽しかった。心に残る一つになりました。愛はどこにでもある。
- ・主役の女の人がとても美しかった。

- ・主人公が超美人！とても勇気づけられます。自分で一步踏み出すこと大事ですネ。
- ・主人公がとてもキレイで感動しました。
- ・主人公が美人でした。音楽が楽しかった。インド映画はあまり見る機会がなく、よかった。
- ・インドの音楽、楽しいですね。
- ・おしゃれで楽しい映画、よかったです。
- ・とても楽しい映画でした。ありがとうございました。
- ・楽しかったです。元気になれる映画でした。
- ・とても元気のる映画でした。
- ・おもしろかった！中国映画も見たい。
- ・チャンバラがよい。赤胴鈴之助や市川雷蔵ものとか。
- ・とてもよかったです。また見に来たいです。
- ・また見に来ます。よかったです。
- ・いい映画でした。
- ・素晴しかったです。
- ・WONDERFUL
- ・よかったです。

次回 (第 54 回) 上映会のご案内

ジェニイの家



1月19日 (木)

① 10:30 ~ 12:15

② 14:00 ~ 15:45

街のボスの世話で「ジェニイの家」という高級売春クラブを経営し、若い男を愛人している中年女性ジェニイ。娘にだけは「汚い生活」を知られまいとするが、母の愛人とは知らずに若い男と恋仲になった娘を見て……。

フランス映画の金字塔として知られる名作『天井桟敷の人々』(1944)の名匠、マルセル・カルネ監督のデビュー作。

監督：マルセル・カルネ
 音楽：ジョセフ・コズマ
 出演：フランソワーズ・ロゼー、シャルル・ヴァネル
 製作：1936年 フランス
 上映時間：105分

『ジェニイの家』テーマ展示

◆ 1月12日 (木) ~ 1月19日 (木)

◆ 場所：ポピュラーライブラリー